

わが

「山形新幹線庄内延伸」が地方創生を実現する ローカル線の再生による域内交流推進とネットワーク形成

はじめに

私は、昨年咽喉部の腫瘍手術を行い、声帯を失いました。現在電気式喉頭(人口声帯)を用いながら公務に復帰しておりますが、全国で唯一、「声を失った市長」ということになりました。そうした中、市民をはじめ全国から激励の声援を数多く頂戴しました。この誌面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。また、同じ障害のある人から私の姿を見て勇気をももらった



酒田舞娘(まいこ)の艶やかな踊りと湊酒田の味を楽しめる「相馬樓(そうまろう)」

とのお便りもいただきました。そうですね、私にとりまして望外の喜びです。

西の堺、東の酒田

最初に酒田市の紹介をさせていただきます。コロンブスがアメリカ大陸に上陸した1492年、最上川の河口に小さな船着き場ができました。これが、酒田港、酒田市街地の原点です。この小さな湊は次第に大きくなり、河村瑞賢の西廻り海運の整備により、「西の堺、東の酒田」と称せられるほどに空前の繁栄を極める湊町へと発展を遂げました。

当時、最上川舟運によって米や紅花などが酒田に集積し、酒田湊から、北前船により大坂(現在の大阪)や江戸に運ばれ、酒田商人は財を成していききました。井原西鶴の「日本永代蔵」にも「鏡屋」の繁盛ぶりが紹介されています。中でも日本一の大地主と称せられる本間

家は、莫大な財産を築き、「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」と謳われたほどです。自治が認められた酒田は、自由闊達な町人文化が開花しました。湊町のおもてなしの心は、料亭文化として根付き今に至っています。現在、江戸期からの酒田を代表する料亭だった「相馬屋」は、「相馬樓」として公開され、酒田舞娘の踊りと食事を楽しむことができます。

消滅可能性都市への挑戦

戦後は、山形県唯一の重要港湾・酒田港を背景に工業都市としても発展を遂げ今日に至っています。そうした中、平成26年の日本創生会議で、酒田市を含む庄内地域※はすべての自治体が消滅可能性都市とされました。何もしなければ本当にそうになってしまうのかも

「山形新幹線庄内延伸」の人口減少抑制効果

「山形新幹線庄内延伸」は、首都圏と乗り換えなしで直結するメ리트はもちろん、特筆すべき効果として人口減少抑制効果が挙げられます。平成4年に全国初のミニ新幹線※である山形新幹線は県都山形市まで開通し、平成11年には新庄まで延伸されました。平成2年を基準に20年間の人口推移を

山形新幹線庄内延伸

山形新幹線は、フル規格新幹線と乗り換えなしで直通運転するミニ新幹線です。現在、東京～新庄間でつながっています。
「庄内延伸」は、陸羽西線を活用して、この山形新幹線を庄内まで整備するものです。

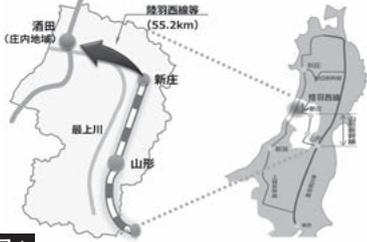
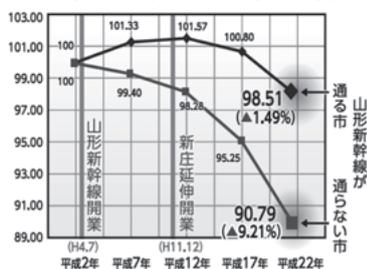


図1

山形新幹線と人口減少抑制効果

(山形県内13市の平成2年を基準とした20年間の人口比の推移)



< 20年間の人口比推移 >
○ 山形新幹線が通る市: ▲1.49%
○ 山形新幹線が通らない市: ▲9.21%

山形新幹線が通る市の人口減少率は、通らない市の約1/6(平成22年)

図2

国は、2020年(平成32年)の東京五輪の開催までに、訪日外国人観光客を現在の1300万人から2000万人にする目標を掲げています。外国人は、観光で訪れ

広域観光(インバウンド)に向けて

※在来線を活用し、新幹線を直通運転する方式

比較したところ、山形県内13市のうち山形新幹線が通っている市(8市)は、▲1・49%であるのに対し、通っていない市(5市)は、▲9・21%と6倍以上の大きな差が生じています。秋田新幹線においても同様の傾向となっており、新幹線ネットワークと結ばれることは人口減少のために大きな歯止めになるのです(参照図2)。

新庄と庄内を結ぶローカル線・陸羽西線の利用状況は、昭和62年の平均通過人員が2185人に対し、平成24年は、403人で、▲82%と

未来への責任

的に変えることとなります。

る際、首都圏から直通していることを重視するといわれており、東京から乗り換えなしで結ばれるかどうかは、観光交流人口を増やすことができるかどうかの大きな分かれ目となります。わが庄内地域には、湊町文化、鳥海山、出羽三山、最上川舟下りなど第一級の美しい景観、観光資源があります。「山形新幹線庄内延伸」により、沿線市町村が連携して沿線開発、魅力発信を進めることによりこの地域の観光を飛躍的に変えることとなります。

プロフィール

なっています。鉄道利用者は年々減少し、今後もこのような状況が続けば、存続していけるかという懸念があります。仮に、廃線となれば、第3セクターでの維持など沿線自治体に大きな負担としてのしかかります。一方、「山形新幹線庄内延伸」は、一定の行政支援が必要となりますが、100年前に先人が整備した陸羽西線に新たな命を吹き込み、地域の大きな発展へと

つなげることができます。まち、ひと、しごと創生本部の基本方針に、「地域と地域が連携し、経済・生活圏を形成する」という方向性が掲げられています。「山形新幹線庄内延伸」により、域内交流の推進、新幹線ネットワークの形成を図り、新たな活力を生み出し「地方創生」を実現することが、子どもたちの確かな未来のために、われわれに課せられた使命だと思っています。



酒田市長 本間正巳

〔市町村合併〕平成17年11月1日、酒田市、八幡町、松山町、平田町による新設合併

〔将来都市像〕人いきいき まち快適 未来創造都市酒田

〔まちの特徴〕鳥海山を仰ぎ日本海に面する港町。山形県唯一の重要港湾酒田港、市内北部には、庄内空港がある

◆面積 602・97km²
◆人口 10万7879人
◆世帯数 4万1867世帯

〔特産品〕むぎそば、女鶴もち、赤ねぎ、メロン、庄内柿、トビウオ、マダラ、スルメイカ

〔観光〕飛鳥、鳥海山、山居倉庫、相馬樓、旧鎗屋、日和山公園、本間美術館、本間家旧本邸、土門拳記念館

〔イベント〕酒田雑街道、酒田まつり、酒田湊・甚句流し、酒田花火ショー、酒田シティハーフマラソン大会、酒田日本海寒鰯まつり、黒森歌舞伎



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

みんなのでつくる 川口の元気

弱いところに光を当てる

川口市は、埼玉県の南端に位置し、国立競技場の聖火台でよく知られる「鋳物産業」や安行の植木に代表される「緑化産業」など「ものづくりのまち」として発展するとともに、現在では、都心へのアクセスの良さから住宅都市として



植木の里“安行”で行われるせり市

も大きく発展し、人口流入は現在も続いています。

58万人を超える人口は、政令指定都市であるさいたま市に次いで埼玉県内で第2位であり、市民の皆さんから福祉や保健、環境などもさまざまな要望をいただいています。こうした要望に迅速に、さらに、弱いところに光を当てるきめ細かな対応をするため、自らのまじのものを自ら決められる領域を拡大できる中核市への移行について、平成30年4月1日を目標に準備を進めているところです。

また、日本経済は景気回復の傾向にあるというものの、弱い立場にある中小企業が主体となる本市のような地域経済においては、その実感は行き渡っていないと感じています。現在、地方版総合戦略の策定に向けて準備をしています

が、中小企業の活性化が重要なポイントだと考えています。

「市産市消」で
地域循環型経済を

わが国の産業を支える大型鋳物の製造や、世界にも知られる安行の植木や花卉^{かき}などの特産農産物は、伝統と文化に培われた「川口ブランド」といえる独自の名産品となっています。

しかしながら、新たな住民には、住みやすいまちとして高い評価をいただいています。この「川口ブランド」があまり知られていないように思われます。

また、市内中小企業の振興と地域経済の活性化を推進するためには、市内で生産された製品が市内で消費されるという、いわゆる「市産市消」と呼ばれる経済循環

システムを構築することが、大変重要だと考えています。

そこで、川口商工会議所をはじめとする市内の産業支援機関や業種団体、金融機関と連携し、本年10月23日から25日までの3日間にわたり「市産市消フェア」の開催を計画いたしました。市内の名産品を一堂に集め、市内外の企業や市民の皆さん、近隣自治体の皆さんに対し大々的に周知し、市内企業の受注機会および販路拡大を図ってまいります。

さらに市において建築資材などを中心に市産品を製造する企業および製品等の一覧表を作成し、公共工事の受注業者に情報提供することで、可能な限り市産品を活用していただくようお願いすることにしていきます。

これらを契機に、市内業者の売上高増加を図ることによって、市内経済の活性化につながることを期待しています。まずは隗より始めよ、ということでも市役所において公共工事や備品の調達に際し、

市産品を適正な価格で活用する取り組みを進めています。

子育てしやすいまち川口 住み続けたいまち 川口を目指して

本市は「子育てに力を入れていく自治体」として、若い世代の皆さんが就労と子育てを両立できるように、安心した子育て環境の整備に積極的に取り組んでいます。中でも、保育所待機児童の解消を喫緊の課題ととらえ、平成29年度中の待機児童解消を目指しています。

現在、認可保育所に入所できない児童が1000人を超える状況にあります。平成26年から保育施設整備の促進を図るため独自の補助制度を創設し、民間事業者による保育所の建設や賃借による新規開設などを支援してまいりました。その結果、本年4月の開所に向けて、認可保育所11施設、定員741人、低年齢児を対象とした小規模保育事業30施設、定員470人の整備が進められ、合わせて受入枠1211人の大幅な定員の拡充が図られることになりました。この整備により、これまで、保育所入所待ちを余儀なくされて

いた多くの皆さまの願いが叶えられるものと考えています。

また、子育て世帯への新たな支援策として、本年4月1日以降に出生した1歳未満の乳児の保護者に対し、育児にかかる費用の一部を応援金として支給する「赤ちゃんにっこり応援事業」を創設し、12月からの実施に向けて準備を進めています。

本市では、いくつかの部に分かれている子育てに関する諸施策を一元的に推進するため、本年4月から新たに「子ども部」を設置し、子どもや若者の健やかな成長を支えるとともに、若い世代の皆さんが安心して子どもを産み育てることができる環境づくり（住み続け



子育てしやすいまち川口

たいまち川口)を目指しています。

みんなでつくる川口の元気

本年は、戦後70年の節目の年です。また、「川口市民は、未来に向かい、平和で豊かな社会を築き（中略）市民一人ひとりが努力すること」を誓った川口市平和都市宣言から30周年でもあります。そのため、本年の秋には広島市にあります被爆樹木の苗木をいただき記念植樹をするなど、改めて恒

プロフィール

- ◆ 面積 61・97km²
- ◆ 人口 58万9568人
- ◆ 世帯数 26万7155世帯

〔将来都市像〕緑うるおい 人生き活き 新産業文化都市川口

〔まちの特徴〕東京に隣接し、荒川の川の恵みと、鋳物・植木など産業が集積する。ものづくりのまち

〔市町村合併〕平成23年10月11日鳩ヶ谷市を編入合併



川口市長
奥ノ木信夫



〔特産品〕鋳物、植木、花卉、ぼうふう、釣竿、ベゴマ、ソース焼きうどん
〔観光〕東京オリピック聖火台（レプリカ）、グリーンセンター、川口オートレース、旧田中家住宅
〔イベント〕川口市産品フェア、SKI Pシティ国際Dシネマ映画祭、たたら祭り、川口宿鳩ヶ谷宿日光御成道まつり

久平和を願う取り組みをいたします。今日まで平和を保ち続け、また、そのために数々の艱難（かんなん）辛苦を乗り越えてこられた先人方のご努力に応えるためにも、みんなの知恵と力で地域経済を立て直し、人々が元気になり、産業が元気になり、暮らしやまちが元気になる、「みんなでつくる川口の元気」の実現に向けて、引き続き市民の皆さんと一緒に取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

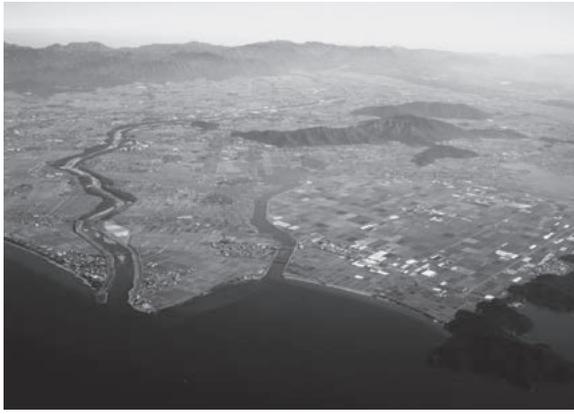
わが

鈴鹿から琵琶湖まで

地域資源を生かした自己完結型のまちを目指して

はじめに

本年2月に市制10周年を迎えた東近江市は、滋賀県の南東部に位置し、地形は東西に細長く、東側は鈴鹿山脈を挟んで三重県と隣接し西側は琵琶湖に面しています。地域の56%が森林を占め、南北およそ60kmにわたる鈴鹿山脈は御池岳や御在所岳などの山々が連なり、イヌワシ、クマタカの生息をはじめ動植物の南限と北限が交わる貴重かつ多様な自然環境が



鈴鹿の山並みから琵琶湖の東部に広がる湖東平野に位置する東近江市

見られます。また、これらの山々に源を発する一級河川愛知川と日野川が地域の中央部と南西部を流れ、近畿1450万人の水源である琵琶湖へ注いでいます。その流域には肥沃な農地が広がり、穏やかな気候と相まって、農業産出額は県内第1位を誇る近畿でも屈指の穀倉地帯を形成しています。日本最大にして最古の湖、琵琶湖ではニゴロブナやアユ、モロコなどの固有の生態系を維持・回復するため市民の手による湖岸の清掃活動やヨシ刈り、外来魚駆除などの環境保全活動が熱心に展開されています。

一方、合併前の旧1市6町において企業誘致が進められ、IT関連工場や電気機械・住宅メーカーなどの多様なものづくり企業の進出があり、現在、製造業に見る事

業所数は県内2位、製造品出荷額等は県内3位となるなど、内陸型工業都市としての性格も有しています。

壮大な歴史ロマンと独自の地域文化をめぐんで

東近江市は、縄文時代草創期およそ1万3000年前の相谷熊原遺跡や25年前に未盗掘で発見された三角縁神獣鏡が大きく注目された雪野山古墳、百済寺をはじめとする聖徳太子ゆかりの寺院など、数多くの歴史資源が存在しています。また、額田王が大海人皇子にあてて詠んだ万葉集の相聞歌「あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖ふる」の舞台となつた蒲生野の歴史ロマンや、惟喬親王を信仰の祖神とし轆轤りくろを使用した木で盆や椀をつくる木地師発祥

の地としても知られています。

中世以降は中山道や御代参街道、八風街道などに往来が多く、市場町や門前町に連なる交通の要衝として栄え、近世には近江商人が全国で活躍し、さまざまな地域との交流を通じて数多くの伝統や独自の地域文化を根付かせ、「三方よし」の精神をめぐんできました。江戸時代中頃、子どもの出生を祝って5月の節句に揚げたのが始まりとされる東近江大凧は、明治時代に240畳敷大凧が揚げられた記録が残るなど近江八日市の大凧揚げ習俗として国の無形民俗文化財に選択されており、毎年5月には100畳大凧を揚げる「東近江大凧まつり」が盛大に開催され、東近江大凧保存会によりその技術が受け継がれています。

市制10年を迎えて

二度の合併を経て誕生した東近江市は「うるおいとにぎわいのまち」を目指して着実な歩み続け、10年の節目を迎えました。この10



毎年、5月に開催される「東近江大風まつり」

年間には市民の皆さまの理解を得ながら、福祉、教育、産業、まちづくり、情報推進、防災などさまざまな事業を展開してきました。2年前から3代目市長に就任し、その後医師不足に起因する能登川病院と蒲生病院という2つの公立病院の危機的状況に一定の道筋をつけることができました。

近年の特徴的な取り組みとしては、「鈴鹿山麓無限∞会議」と称する会合を立ち上げました。鈴鹿山脈を挟む8つの自治体が一堂に会し、観光や文化、産業などさまざまな観点で話し合うもので、これまで三重県菰野町と本市において開催し、特産品振興策などについて議論する中で、それぞれのまちの連携と発展を目指しています。また、ブラジル人学校である準学校法人ラチーノ学院の受け入れが

実現しました。市内の中山間地域で児童数減少に伴い閉校した小学校に、日本ラチーノ学院 甲津畑インターナショナルスクールを開校していただきました。このような地域での外国人学校の受け入れは全国的にも珍しく、本市でも初の試みとなりますが、過疎化が進む山間部に新たな息吹が吹き込まれることを期待してやみません。

近畿圏と中部圏の結節点 という地の利を生かす

平成23年3月、東近江市民の悲願であった三重県いなべ市とつながる国道421号石樽トンネルが開通、平成25年10月と12月には国土の大動脈である名神高速道路の湖東三山と蒲生スマートインターチェンジが相次いでオープンしました。これら交通インフラの整備によって近畿経済圏と中部経済圏との交流が飛躍的に向上し、ヒト・モノ・情報の新しい流れや動きが期待できることから、この地の利を生かして企業誘致や観光振興に力を注ぐとともに、近江米、近江牛、地酒をはじめ新鮮でおいしい農産品などのトップセールスも行ってまいります。

人口減少社会が到来し、地方創生の取り組みが本格化する中、本市には美しい自然と素晴らしい歴史・文化・伝統があり、これらに磨きをかけて後世に伝えていくことが何より大切です。そのことに私たち市民がいち早く気づき、誇りと自信を持つことから始めなければなりません。

同時に、男女の出会いの場、結

婚、出産、育児、子育てと切れ目のない支援を行政としてしっかり取り組むことや、10年、20年後を見据えたロングスパンで取り組む事業に布石を打つことも重要です。これらの要素を前提として、人が集い、ここで生まれて人生を過ごしてよかったと思える、いわゆる自己完結能力のあるまちを目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 388・37km²
- ◆ 人口 11万5605人
- ◆ 世帯数 4万2083世帯

〔将来都市像〕うるおいとにぎわいのまち

〔まちの特徴〕鈴鹿の山々から琵琶湖まで広がる市域を有し、万葉のころより綿綿と続く歴史・伝統・文化の存在するまち

〔市町村合併〕平成17年2月11日、八日市市・永源寺町・五個荘町・愛東町・湖東町の1市4町合併。平成18年1月



東近江市長
小椋正清



1日、東近江市・能登川町・蒲生町の1市2町合併

〔特産品〕近江米、メロン、ナシ、ブドウ、政所茶、こんにゃく、木地製品、布引焼、小幡人形、麻織物など

〔観光〕五個荘近江商人屋敷、世界風博物館東近江大風会館、あいつうマーガレットステーション、永源寺、百済寺、太郎坊宮など

〔イベント〕東近江大風まつり、ぶらっと五個荘まちあるき、聖徳まつり、コトナリエサマーフェスタ、二五八祭、永源寺もみじまつり、伊庭の坂下し祭など

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

庄原市しょうばら（広島県）

庄原市長

木山耕三きやまこうぞう

わが

「庄原いちばんづくり」による「心のいちばん」を実感できるまちへ

はじめに

庄原市は、広島県の北東部、中国地方のほぼ中央に位置し、島根・鳥取・岡山県と接する県境のまちです。平成17年3月に近隣の1市6町が合併し、近畿以西では最大の市域となり、このたび10周年を迎えました。

広大な市域を有する本市には、比婆道後帝釈国定公園や中国地方唯一の国営公園である備北丘陵公園が所在するほか、春は市内で標高差があるため4月上旬から1



日本一の天然橋、帝釈峡「雄橋」

カ月余り桜が楽しめます、夏は標高1000m級の比婆山連峰、道後山などへの

登山・キャンプ、秋には帝釈峡・比婆山連峰の紅葉狩り、冬は市内に4カ所あるスキー場でのスキーや雪遊びが楽しめることから、四季の移ろいを感じる日本一のまちと言っても過言ではないと自負しております。

大自然に刻まれた太古の記憶

豊かな森林と溪流を有する本市には、古くから大自然と共存してきた人々の暮らしがあり、雄大で美しい風景が受け継がれてきました。壮大な時間の流れの中で描かれてきた大自然の芸術は、多くの人々を魅了しています。

国の天然記念物に指定された、長さ90m、幅19m、高さ40mの日本一の天然橋といわれる帝釈峡の「雄橋」や、県の天然記念物に指定された1000本を越す大杉群が

社叢を形成し、713年以前の創建とされる「熊野神社」、神武天皇陵と言いつた伝えられ、どの方向から見ても三角形に見える山容と巨石群により日本のピラミッドと称される「葦嶽山」など、自然の持つ神秘的な力を感じることができ、ウォースポットが所在しています。

また、昔から伝えられた神話や伝承が数多く残されており、日本最古の歴史書とされる「古事記」にも登場する比婆山御陵。そのなだらかな峰は、地元で古くから「伊邪那美命の陵墓」と伝えられ「比婆山伝説地」として県史跡に指定されています。

さらに、人類が登場するよりも古い新生代中新世（1600万年）前頃、本市一帯が浅い海だったことを物語るクジラの化石が4種発見されており、日本一のクジラ



市内で発掘されたクジラの化石と模型

化石の産出地といわれています。なお「中国山地でクジラウォッチング」と題して、その標本を博物館へ展示・公開しております。

こうした大自然の恵みを受けた豊富な資源と魅力を磨き上げ、有機的に結び付けるとともに、観光PRを積極的に行い全国の皆さまに庄原市を「知ってもらおう」「来てもらおう」「感じてもらう」「また来てもらう」といった循環的な取り組みを進めてまいりたいと考えております。

庄原いちばんづくり

本市では、「人口の減少、少子高齢化の進行、基幹産業の衰退」といった過疎地域共通の課題が年々、厳しさを増しています。

そこで、こうした課題を克服し、活力ある庄原市を築くため「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」を柱とする「庄原いちばんづくり」に取り組んでいます。

この「いちばん」とは、数値や量、順位などではなく「しあわせや安心」「達成感や満足感」といった、心の「いちばん」を実感でき「やっばり、庄原がいちばんええよのお」と思える「まちづくり」を意図するものであります。

まず「地域産業のいちばん」では、基幹産業である農林業の振興・再興を図るため、農林業に携わる方の知識や技術、熱意などを呼び覚まし、豊富な資源の有効活用を前提とした「ブランド化の推進」や「6次産業化の推進」に取り組み、平成26年には、かつて全国にその名を轟かせた「比婆牛」ブランドを復活させたほか、「こだわり米」が全国の食味コンクールで高い評価を受けるなど、

徐々にではありますが、確かな手応えを感じております。

次に「暮らしの安心のいちばん」では、本市に生まれ、育ち、生涯にわたる暮らしの基盤・支えとなる、保健・医療・福祉および教育を充実させ、皆さんが安心して「住み続けたい」「子や孫の代まで住ませたい」と実感できる環境づくりを推進しているところです。とりわけ、平成26年度より「第3子以降の保育料無料化」や「乳幼児等医療費助成」を中学3年生まで拡大するなど子育て支援の充実を図ってまいりました。

最後に「にぎわいと活力のいちばん」では、豊かな自然や古来より伝わる多様な文化など、貴重な資源を活用した観光交流と若者の流出を抑制し定住促進を図ることが重要となります。本年3月に全線開通となった中国横断道尾道松江線（中国やまなみ街道）のインターチェンジ2カ所に加え、中国縦貫道のインターチェンジ2カ所を有する全国でもまれな優位性を生かして、多くの交流人口を呼び込み、観光産業へと導く取り組みを進めています。

また、本市への帰郷定住を市民

総ぐるみで展開するため、本市出身の若者や市内事業所、自治振興区などを会員とする「帰ろうや倶楽部」を設置し、ふるさとの情報を伝え、帰郷への呼び掛けを続けております。

おわりに

冒頭にも触れました通り、市制

プロフィール

- ◆ 面積 1246.49km²
- ◆ 人口 3万8166人
- ◆ 世帯数 1万5914世帯

〔将来都市像〕「げんき」と「やすらぎ」のさとやま文化都市 人と地域が輝く、美しい日本のふるさと

〔まちの特徴〕中国山地とその麓に続く里山・田園地帯で、四季折々に彩りを変える豊かな自然に育まれたまち

〔市町村合併〕平成17年3月31日、庄原市、西城町、東城町、口和町、高野町、比和町、総領町の1市6町が対等合併



庄原市長
木山耕三



〔特産品〕比婆牛、米、りんご、広島菜漬、しいたけ、こんにゃく、大根、庄原焼き（お好み焼き）

〔観光〕比婆道後帝釈国定公園、国営備北丘陵公園、熊野神社、道の駅、比和自然科学博物館

〔イベント〕庄原上野公園桜まつり、庄原よいこ祭り、口和モーソー祭、お通り、国営備北丘陵公園ウインターイルミネーション、雪合戦ひろしまin高野、節分草祭

施行10周年を記念し、本年10月11日には、国営備北丘陵公園において、全国の皆さまに庄原市を知っていただきたく、誰でも参加できる「記念イベント」の開催を予定しています。ぜひこの機会に庄原市へお越しくださいることを心よりお待ちしております。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。